
ガム

詩穂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ガム

【Nコード】

N7651H

【作者名】

詩穂

【あらすじ】

それは日常の一部で、でもガムだけに、あるいは噛む事だけに集中する事はない。特異性なんてない。新しいものはいつだってもの珍しくて、何となく口に入れてみる。なんてオハナシ。

(前書き)

初めましての方も、何度か作品内でお会いしている方もこんにちは。
速水詩穂です。
まったりしていって下さい。

よく飽きずに延々と同じ動作を繰り返せるものだ。

物寂しくなっては口に入れ、反復、反復。味がなくなっても反復、反復。

しばらくして気分次第で嫌気が差すと、紙にくるんでポイ。おおよそ誰にでも出来る、実に単純な作業だ。

捨てるタイミングなんて人それぞれで、まだ微かに味が残っていてもいらなくなったらポイする人がいる傍ら、全く味がなくなっても、まるで一種のクセであるかの如く噛み続けた後「ああ、出すの忘れてた」とポイする人もいる。

それは日常の一部で、でもガムだけに、あるいは噛む事だけに集中する事はない。あくまで、動作の断片。切れ端の一部。

ある日、12粒入りのそれから、ボックス入りのそれに替えて車の中に置く事にした。

早速一粒取り出して口に含む。

マスカット。シャリシャリとした独特の食感と、口腔内一杯に広がった鼻を抜ける甘味。一瞬満たされた心地よさに、意図せず頬が緩むのを感じる。

エンジンをかけるとハンドブレーキを踏む。少し遅れて歌いだした音源にあわせて、ハンドルの上で指が跳ねた。

決して嫌い、ではない。「買う」という能動的な動作が作用している以上、まさか望まないものを手に入れたりなんかしない。でも本当に好きか、と聞かれたら答えに詰まる。

この味でなければ絶対に嫌だ、というわけではない。それはあくまで寂しさを紛らわすためのものであって、その他の要素に重きを置いていない。だから「この間友人にもらったガムがおいしかった」、ただそれだけで次に買うボックスの色は桃色に変化するのだろう。

特異性なんてない。

新しいものはいつだってもの珍しくて、何となく口に入れてみる。そうして「当たり前」だったとしても少し経てばまた別の、新しい味を試してみたいくなる。

かわいいパッケージ、新食感のうたい文句。

欲しい、と感じる欲求を、制限する必要があるどこにある。

ほら、笑った。そうでしょう？

赤信号にあわせて車を止めると、おもむろにボックスを手を取った。ふたを開けて三つ四つ取り出したそれを口に放り込む。

今まで噛んでいたのをそのままに。

何、取り出すのが面倒くさかっただけ。

問題はない。全身を甘味でコーティングしたそれらが、今まで含んでいたものも巻き込んで楽しませてくれるから。

どうせ最後は全部まとめてポイ。ね、簡単な話。

一つだけじゃ物足らなくなるだけ。

いつも一杯に含んでいないと落ち着かないようになるだけ。

主要道路を外れて側道に入ると、ぶつかった信号を折れて住宅街へ向かった。

通り慣れた道。細い道の伸びる先に向かって速度を落とすこと。二

つ目の信号を右に入ること。それらは頭ではなく身体が覚えている。

目的地に着く前に、もう一度ボックスを開けた。

(後書き)

読んでいただいております。ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7651h/>

ガム

2010年10月12日00時07分発行